

# 与野党初の実務者会合

## 被災者対応の強化協議

東日本巨大地震を受けた「各党・政府震災対策合同会議」は19日、国会内で初の実務者会合を開き、被災者支援の強化などについて協議した。野党側からは福島第

一原子力発電所の事故をめぐる政府対応の遅れや、被災地での物資不足について注文が相次ぎ、今後は会合を毎日開くことで一致した。16日の合同会議初会合

では各党が提言や要望を示し、18日の2回目の会合で政府が対応状況を示した。野党からは「被災地に物資が届いていない」など不満が相次いでおり、現地からの要望をもとに、より実務的レベルで具体的な支援策を協議することになった。

この日は、与党から民主党の岡田幹事長、国民新党の亀井亜紀子政調会長が出席。政府・与党は合同会議や実務者会合を通じて野党との信頼関係を築き、2011年度予算関連法案の審議や採決で協力を引き出すことも視野に、三役クラスを会議にそろえた。

対する野党からは、自民党が復興対策に詳しい谷公一、副幹事長や西村康稔経済産業部会長、公明党は石田祝稔政調副会長が出席するなど、「実務型」の議員が顔をそろえた。自民党幹部は「幹部が並んでも、政府・与党のアリバイ作りに使われるだけ。実務者の方が効率的だ」と話した。